

2025年3月期決算概要



日進工具株式会社

2025年5月15日
(証券コード6157)

目次

1. 2025年3月期の業績

P. 3	・・・	決算の概要
P. 4	・・・	営業利益の減益要因
P. 5	・・・	損益計算書サマリー
P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
P. 7	・・・	業績推移

2. 2026年3月期の業績予想

P. 14	・・・	業績予想
P. 15	・・・	設備投資と減価償却費のトレンド
P. 16	・・・	配当予想

参考資料

P. 18	・・・	日進工具の概要
P. 19	・・・	沿革・業績推移
P. 20	・・・	当社製品とその市場について
P. 29	・・・	コーポレートガバナンスの体制
P. 31	・・・	株式の状況
P. 32	・・・	主要データ推移・投資指標
P. 34	・・・	株価推移とバリュエーション
P. 35	・・・	IR情報サイト/ ニュースメール登録のご案内

2025年3月期の業績



決算の概要

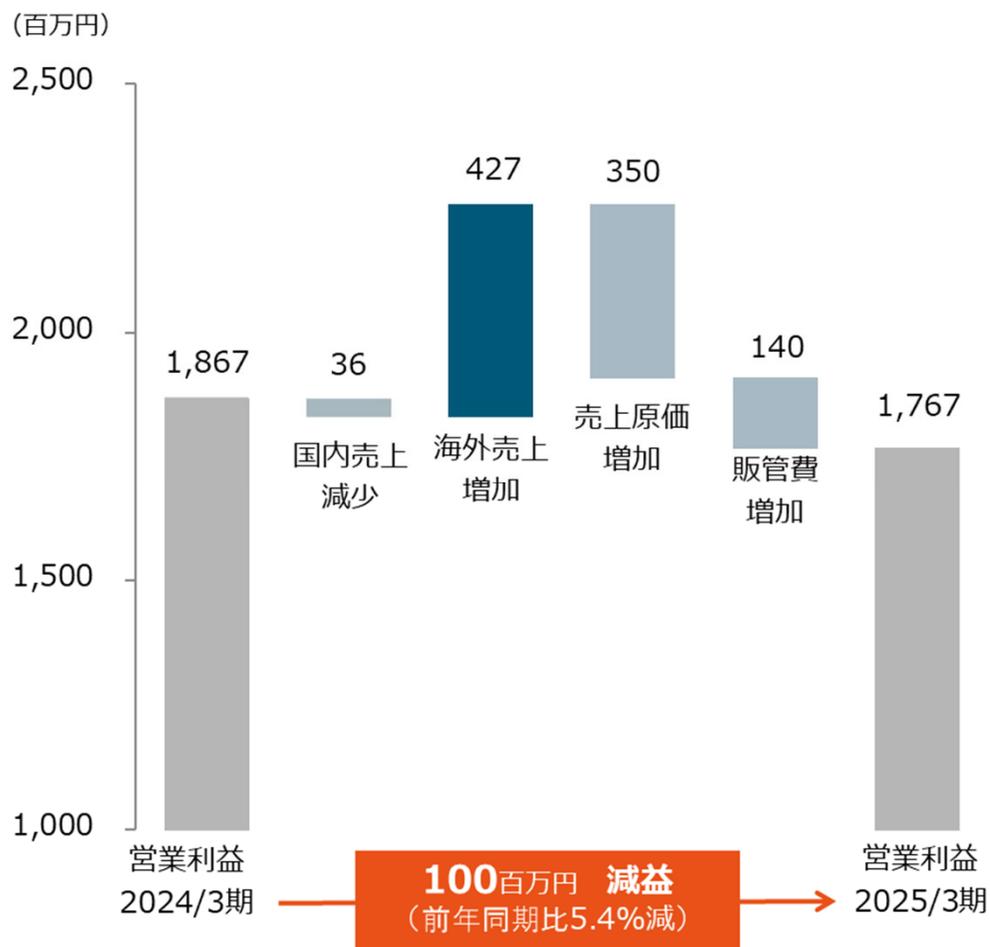
前期に比べ増収・減益

通期業績予想は売上・利益ともに達成

(単位：百万円)	通期予想	2025年3月期 通期実績	予想対比
売上高	9,430	9,431	1
前期比	+4.3%	+4.3%	+0.0%
営業利益	1,730	1,767	37
前期比	-7.4%	-5.4%	+2.2%
経常利益	1,740	1,779	39
前期比	-8.8%	-6.8%	+2.3%
当期純利益	1,190	1,264	74
前期比	-9.9%	-4.2%	+6.3%

- 半導体や電子・デバイス関連は、AI関連需要に牽引され堅調に推移したが、自動車関連は、後半にかけて生産台数の持ち直しが見られたものの、新規車種の開発が少なかったことから、工具需要は低調に推移した。一方海外では、中華圏でのEVやスマートフォン向け電子部品関連の受注獲得により好調に推移した。
- 連結売上高は9,431百万円と、前期比4.3%の増加となった。
- 連結営業利益は1,767百万円と同5.4%の減少、連結経常利益は1,779百万円と同6.8%の減少。
- 売上高営業利益率は18.7%、売上高経常利益率は18.9%となった。

営業利益の減益要因



- 売上高は国内が前期比36百万円、0.6%減少、一方海外は同427百万円、15.7%増加した。売上高全体では同390百万円、4.3%増加となった。
- 材料費や労務費、製造経費など製品製造原価が全体的に増加したことにより、売上原価は同350百万円、8.6%の増加。
- 販管費は製品カタログの改訂費用等により販売費が同6.8%増加し、販管費全体では同140百万円、4.6%の増加となった。
- これらの結果、営業利益は同100百万円、5.4%減少し1,767百万円、売上高営業利益率は18.7%と前期の水準を2.0ポイント下回った。

損益計算書サマリー

(単位：百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前期比
売上高	9,040	9,431	+4.3%
売上総利益	4,942	4,983	+0.8%
対売上高比率	54.7%	52.8%	
販管費	3,075	3,215	+4.6%
対売上高比率	34.0%	34.1%	
営業利益	1,867	1,767	-5.4%
対売上高比率	20.7%	18.7%	
経常利益	1,908	1,779	-6.8%
対売上高比率	21.1%	18.9%	
当期純利益	1,320	1,264	-4.2%
対売上高比率	14.6%	13.4%	
設備投資額	563	111	-80.3%
減価償却費	627	644	+2.7%
従業員数	350人	358人	+2.3%

- 売上高は9,431百万円と前期比4.3%の増加。国内向けは自動車関連を中心に低調だったが、中華圏向けが好調に推移した。
- 売上総利益は4,983百万円と同0.8%増加。売上高の上昇率以上に売上原価が増加したため、売上総利益率は52.8%と同1.9ポイント低下。
- 販管費は人件費や販売費の増加等に伴い、同4.6%増加、売上高販管費比率は34.1%と同0.1ポイント上昇。
- これらにより、営業利益は同5.4%減の1,767百万円、売上高営業利益率は18.7%と、同2.0ポイント低下。
- 設備投資額は、新規導入設備が少なく、同80.3%減の111百万円となった。減価償却費は前期繰越分の設備稼働により同2.7%の増加となった。

貸借対照表サマリー

(単位：百万円)	2024年 3月期末	構成比	2025年 3月期末	構成比	前期末比
(資産の部)					
I 流動資産	12,719	66.1%	13,791	69.2%	+8.4%
現金及び預金	8,893	46.2%	9,868	49.5%	+11.0%
受取手形及び売掛金	1,305	6.8%	1,393	7.0%	+6.7%
棚卸資産	2,381	12.4%	2,308	11.6%	-3.1%
II 固定資産	6,521	33.9%	6,150	30.8%	-5.7%
有形固定資産	5,361	27.9%	4,842	24.3%	-9.7%
無形固定資産	24	0.1%	15	0.1%	-36.0%
投資その他の資産	1,135	5.9%	1,292	6.5%	+13.8%
資産合計	19,241	100.0%	19,941	100.0%	+3.6%
(負債の部)					
I 流動負債	1,287	6.7%	1,301	6.5%	+1.1%
買掛金	173	0.9%	213	1.1%	+23.7%
II 固定負債	224	1.2%	224	1.1%	-
負債合計	1,512	7.9%	1,526	7.7%	+0.9%
(純資産の部)					
自己資本合計	17,525	91.1%	18,221	91.4%	+4.0%
純資産合計	17,729	92.1%	18,415	92.3%	+3.9%
負債・純資産合計	19,241	100.0%	19,941	100.0%	+3.6%

流動資産

新規設備投資の減少により現金及び預金が増加したこと等から前期末比8.4%増加。

固定資産

新規設備投資が少なかったことから減価償却が上回り、同5.7%減少。

負債

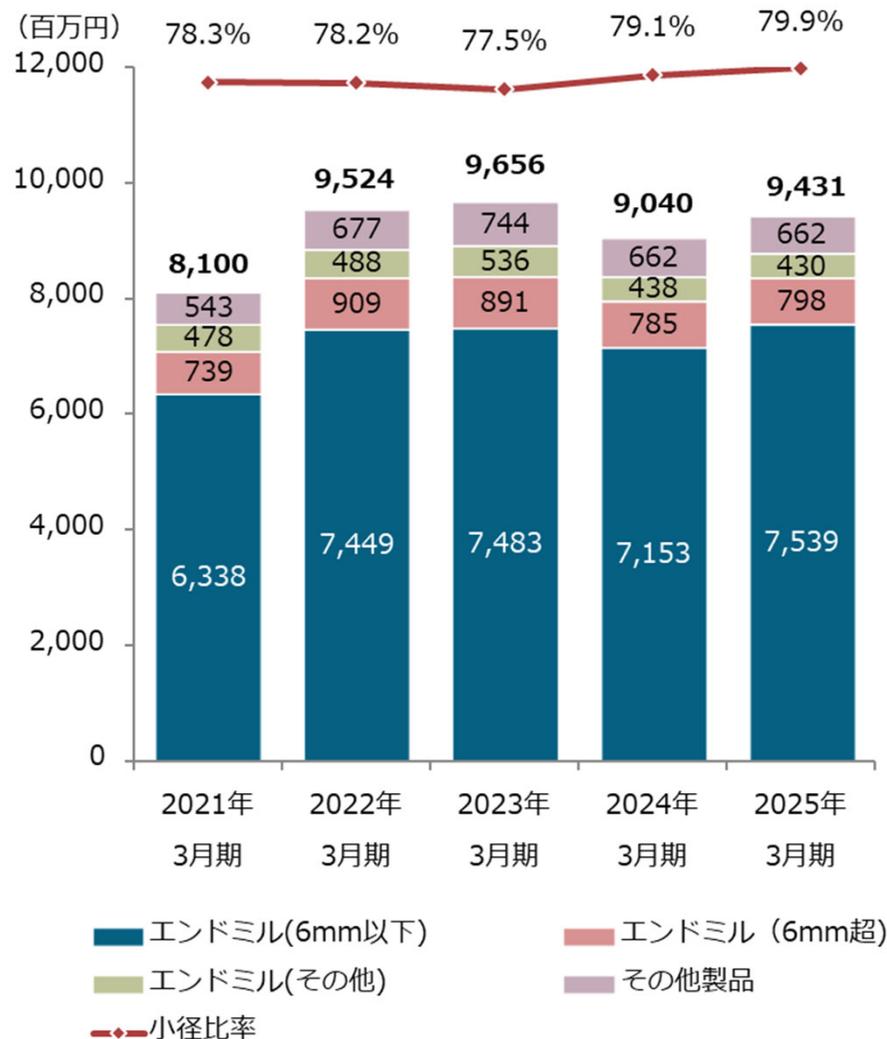
買掛金や未払法人税等の増加等により、同0.9%増加。

純資産

利益剰余金の増加等から、同3.9%増加。自己資本比率は91.4%と同0.3ポイント上昇。

業績推移（売上高の推移①） 製品別

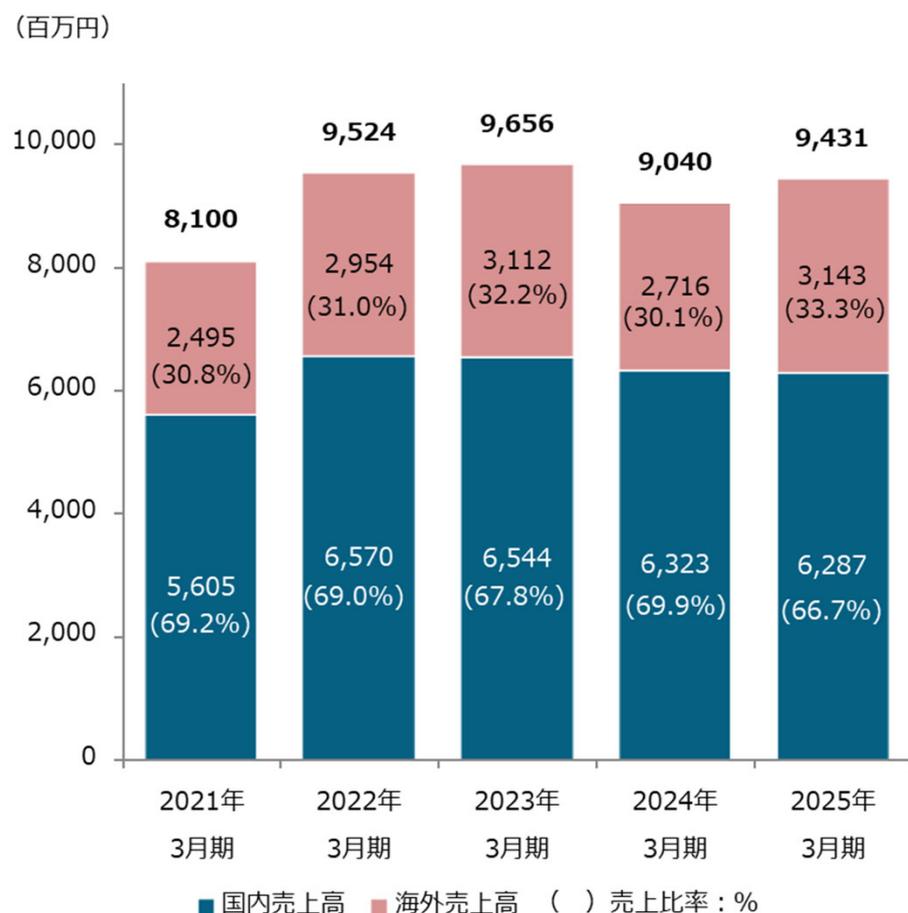
製品別売上高と小径比率の推移



- 製品別売上高の内訳は、エンドミル（6mm以下）が前期比5.4%の増加、エンドミル（6mm超）は同1.6%増加、ユーザーの独自仕様となる特殊品を中心としたエンドミル（その他）は同1.9%減少し、工具ケース等のその他製品は横ばい。
- 売上高9,431百万円のうち、主力のエンドミル（6mm以下）の売上が7,539百万円となり、小径比率は79.9%と同0.8ポイント上昇。

業績推移（売上高の推移②） 国内・海外

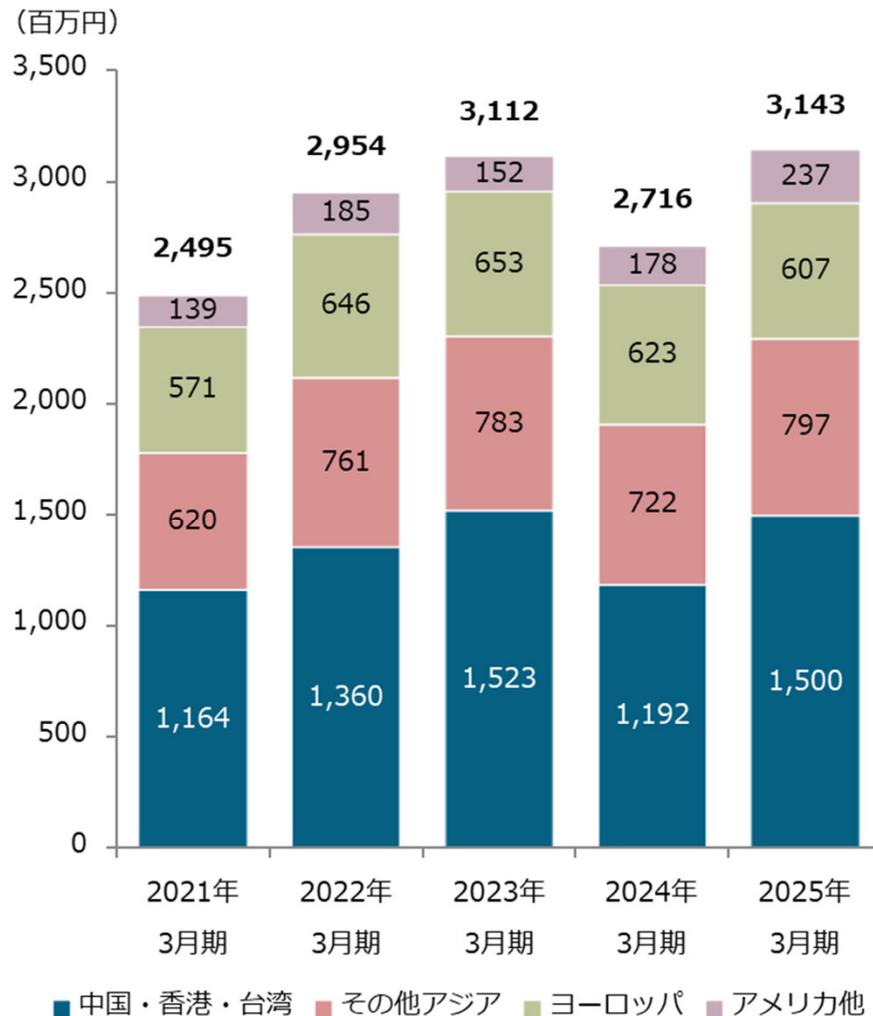
国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前期比36百万円、0.6%減少し6,287百万円となった。海外売上高は同427百万円、15.7%増加し3,143百万円であった。
- 海外売上高は、前期に大きく低迷した中華圏で増加した。日進工具香港の連結にからみ、当期の中国向けの数字は1-12月分。
- 国内売上高が低調な一方で、海外売上高が伸びたことにより海外売上高比率は前期比3.2ポイント上昇し33.3%となった。

業績推移（売上高の推移③） 海外地域別

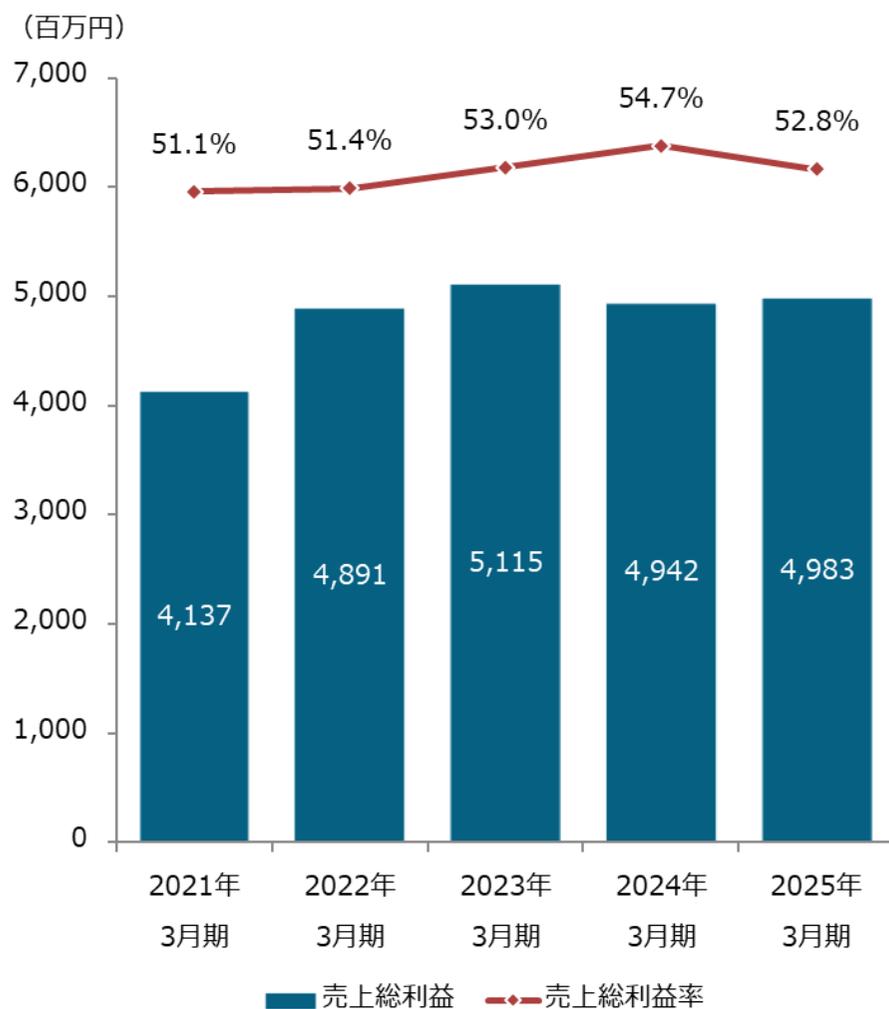
海外地域別売上高の推移



- 中国・香港・台湾は前期比25.9%増加し1,500百万円。日進工具香港の連結にからみ中国向けの数字は1-12月分。スマートフォン関連の受注が増加。さらに、光学・EV関連での需要も継続し売上が伸びた。市況自体は好転していないが、受注獲得により前期よりも改善した。
- その他アジアは同10.4%増加の797百万円。タイでは自動車関連が低調となっていたが、後半にかけて新規モデル案件によりやや回復傾向となった。インドは自動車やバイク等の現地ブランドの製造業が好調となった。
- ヨーロッパはドイツを中心に自動車業界が低調、全体的に市況が低迷し、同2.5%減少の607百万円。
- アメリカ・メキシコ向けの数字はNS TOOL USAの連結にからみ1-12月分。商流変更による連結期間のずれと為替レートの影響に加え、精密加工需要の増加により前期比増収となった。

業績推移（売上総利益の推移）

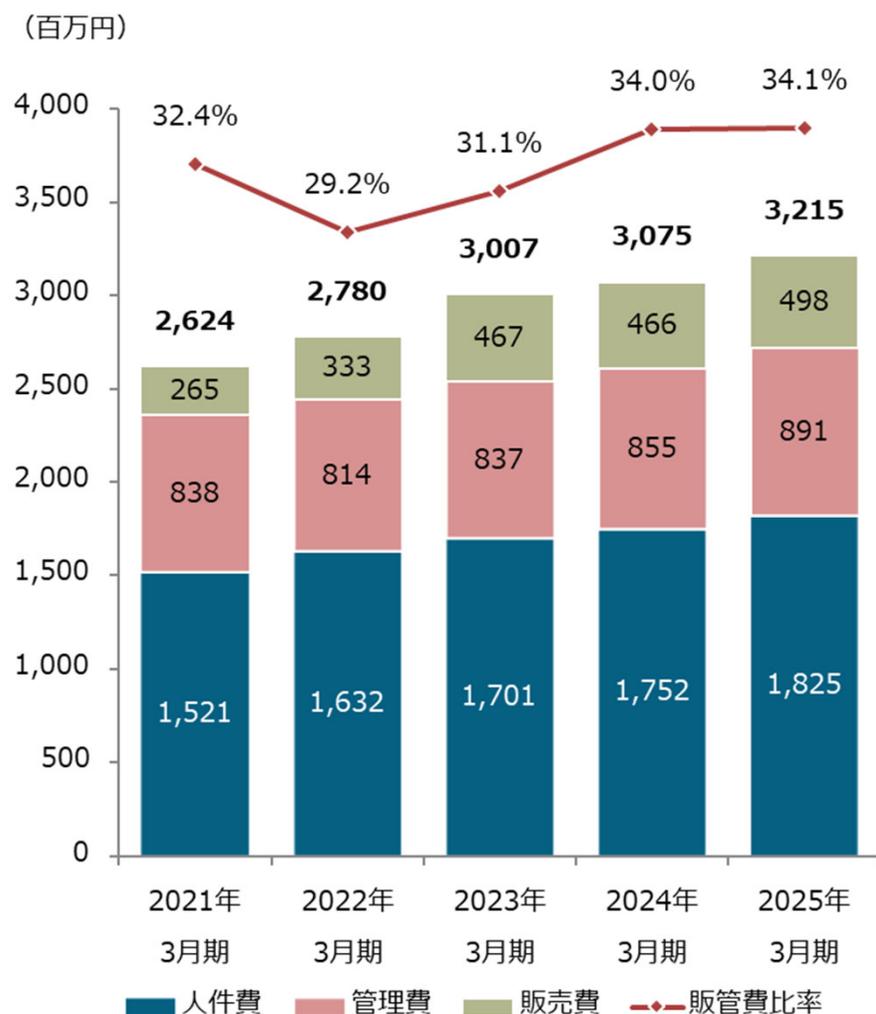
売上総利益と売上総利益率の推移



- 前期より生産量が増加したことにより、材料費は前期比10.6%増加。労務費は人員の増加や賃上げにより同2.5%増加、製造経費は製造電力費や工場消耗品費、製造修繕費等が増加し同15.8%増加した。
- 売上高および製造原価の増加に伴い、売上原価は同8.6%の増加となった。
- 売上総利益率は52.8%と同1.9ポイント低下したものの、増収により売上総利益は4,983百万円、同0.8%増加した。

業績推移（販管費の推移）

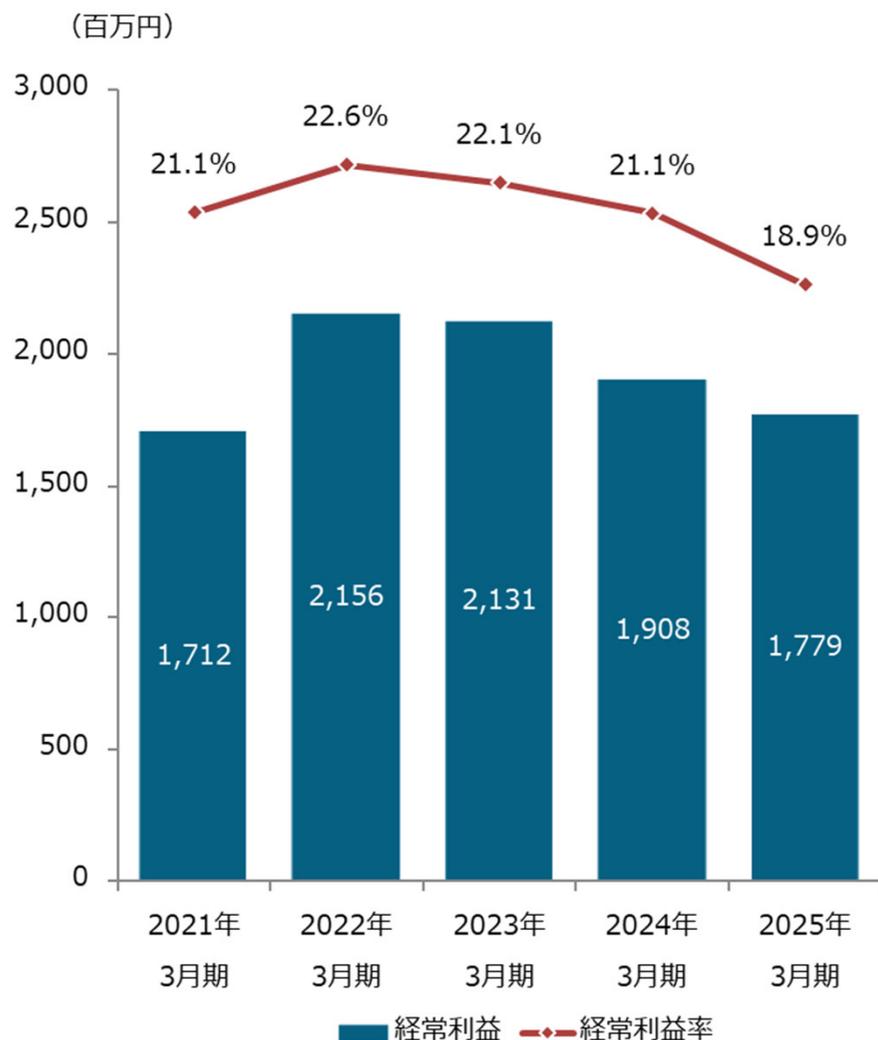
販管費と販管費比率の推移



- 販売費は、前期比6.8%増加の498百万円。製品カタログ改訂に伴い広告宣伝費が増加したほか、大規模展示会への出展に伴い展示会費が増加した。
- 人件費は、賃上げや人員増に伴う給与や役員報酬の増加等から同4.2%増加の1,825百万円。
- 販管費全体では同4.6%増加の3,215百万円となり、売上高販管費比率は34.1%と同0.1ポイント上昇した。

業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 売上高は前期比4.3%増加したが、売上高以上に売上原価と販管費の増加率が高かったため、営業利益は同5.4%減少、1,767百万円となった。
- 営業外損益は、作業くず売却益等により営業外収益が30百万円、為替差損等により営業外費用が17百万円発生した。経常利益は1,779百万円、同6.8%の減少。
- 売上高経常利益率は18.9%と前期に比べ2.2ポイント低下した。

2026年3月期の業績予想



業績予想

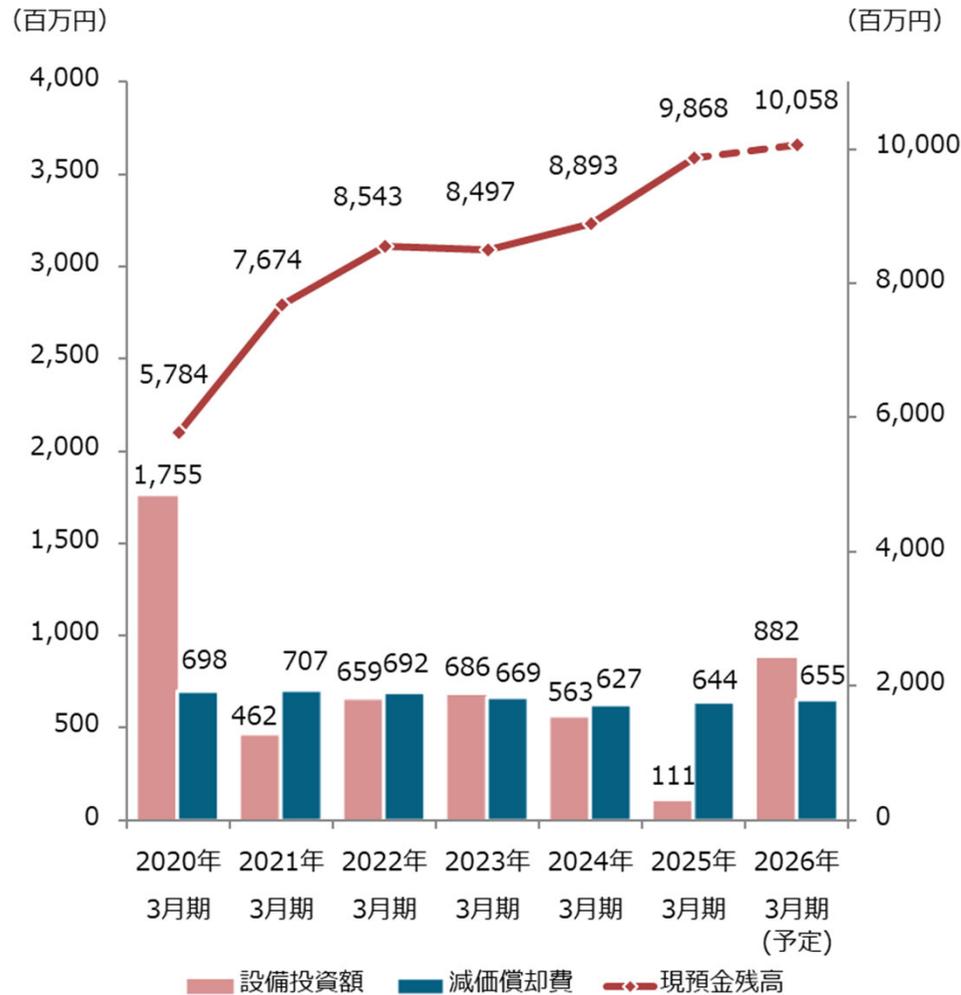
(単位：百万円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想	前期比 増減率
売上高	9,431	9,680	+2.6%
営業利益	1,767	1,740	-1.5%
経常利益	1,779	1,750	-1.7%
当期純利益	1,264	1,200	-5.1%

設備投資額	111	882	+693.5%
減価償却費	644	655	+1.7%
EPS (円)	50.80	48.20	-5.1%
1株当たり配当金 (円)	30.00	30.00	—

- 米国関税政策の動向により、当社需要先が大きな影響を受けると想定されるが、見通しを合理的に見積もることができないことから、関税問題が発生する前の市況予測での業績予想となる。
- 自動車関連は、認証不正問題等の影響解消により生産増加が期待される。半導体・電子部品関連はAI関連の堅調な需要に加え、在庫調整の一巡により緩やかに伸びていくと予想。しかし、関税問題により先行きは不透明となっている。
- 素材費や人件費を中心としたコスト上昇により製造原価と販管費の増加を見込むため、営業利益、経常利益ともに減益予想。
- 設備投資は、増産のための新規設備導入と継続的な生産設備の更新を実施予定。
- 1株当たり配当金は、中間配当金15.0円、期末配当金15.0円の年間配当金30.0円を予定。

設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



(左軸：設備投資額・減価償却費、右軸：現預金残高)

設備投資増減要因

2021年3月期

稼働率の低下もあり、一部設備の導入を次期に繰越したことから当初計画に比べ減少。

2023年3月期

主に生産設備の増強等を実施。設備導入が一部次期にずれ込み、期初計画より減少。

2024年3月期

生産設備の増強を予定していたが、設備計画の繰り越しもあり減少。

2025年3月期

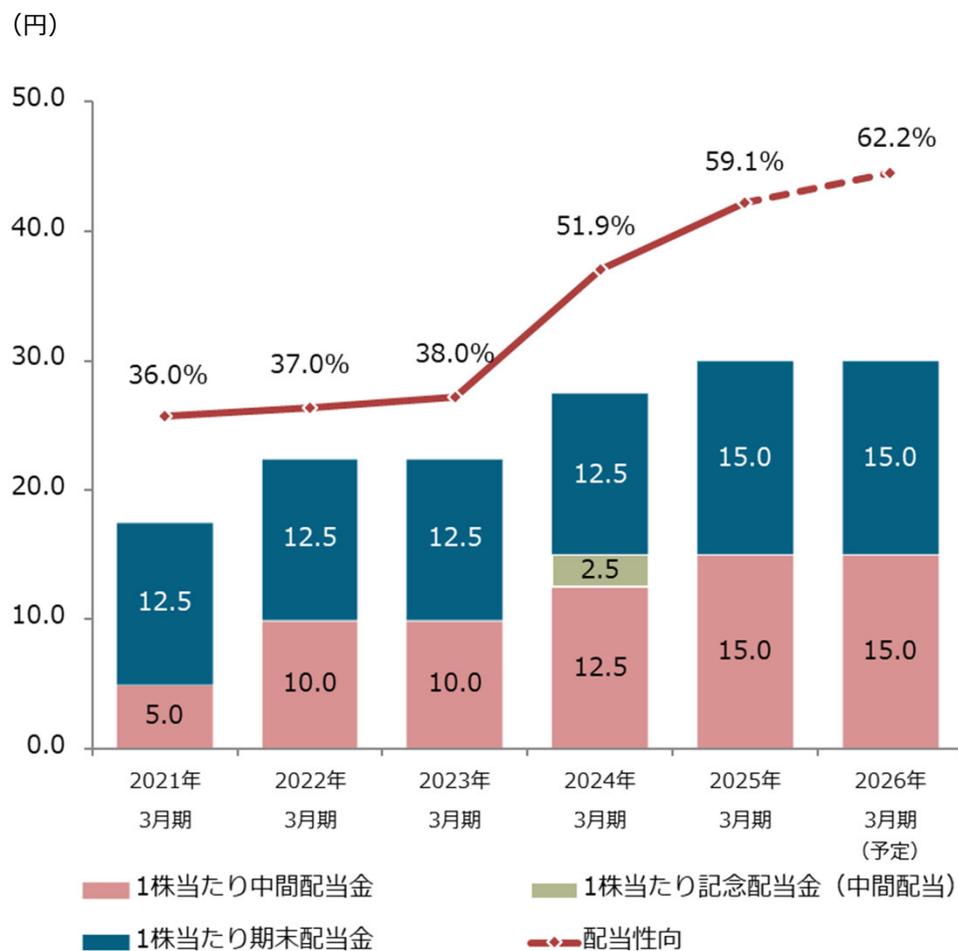
新規設備導入が少なく、設備投資額は前期より大きく減少。一方、未稼働であった設備が稼働開始したため減価償却費は増加。

2026年3月期計画

2025年3月期は設備投資を絞ったが、2026年3月期は新規設備導入と生産設備の更新を実施予定。

配当予想（株主還元について）

1株当たり配当金と配当性向の推移



※2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

安定性・継続性に配慮しつつ

業績動向や配当性向等を総合的に勘案

- 2025年3月期の1株当たり年間配当金は30.0円を予定。
手元流動性が増加しており、株主還元強化のため増配予定。
中間配当金15.0円
期末配当金15.0円
業績に対する配当性向は59.1%
- 2026年3月期の1株当たり年間配当金は30.0円を予定。
中間配当金15.0円
期末配当金15.0円
業績予想に対する配当性向は62.2%
- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された、
1単元（100株）以上を3年以上保有（※）されている
株主様を対象にオリジナルクオカード2,000円分を贈呈。

※3年以上保有とは、株主名簿基準日（3月31日及び9月30日）の株主名簿に7回以上連続して、同一株主番号で100株以上の保有記録が記載または記録されることをいいます

參考資料



日進工具の概要 (2025年3月31日現在)

商号	日進工具株式会社 (NS TOOL CO.,LTD.)
創業	1954年(昭和29年)12月
本社	東京都品川区大井1-28-1 住友不動産大井町駅前ビル6F
資本金	4億5,533万円
代表者	代表取締役社長 後藤 弘治
従業員数	単体:232名、連結:358名
事業内容	超硬エンドミル(切削工具)の製造・販売

沿革・業績推移

← 第1次成長期 → ← 第2次成長期 → ← 現体制 →

売上27.1億円、経常益3.3億円達成

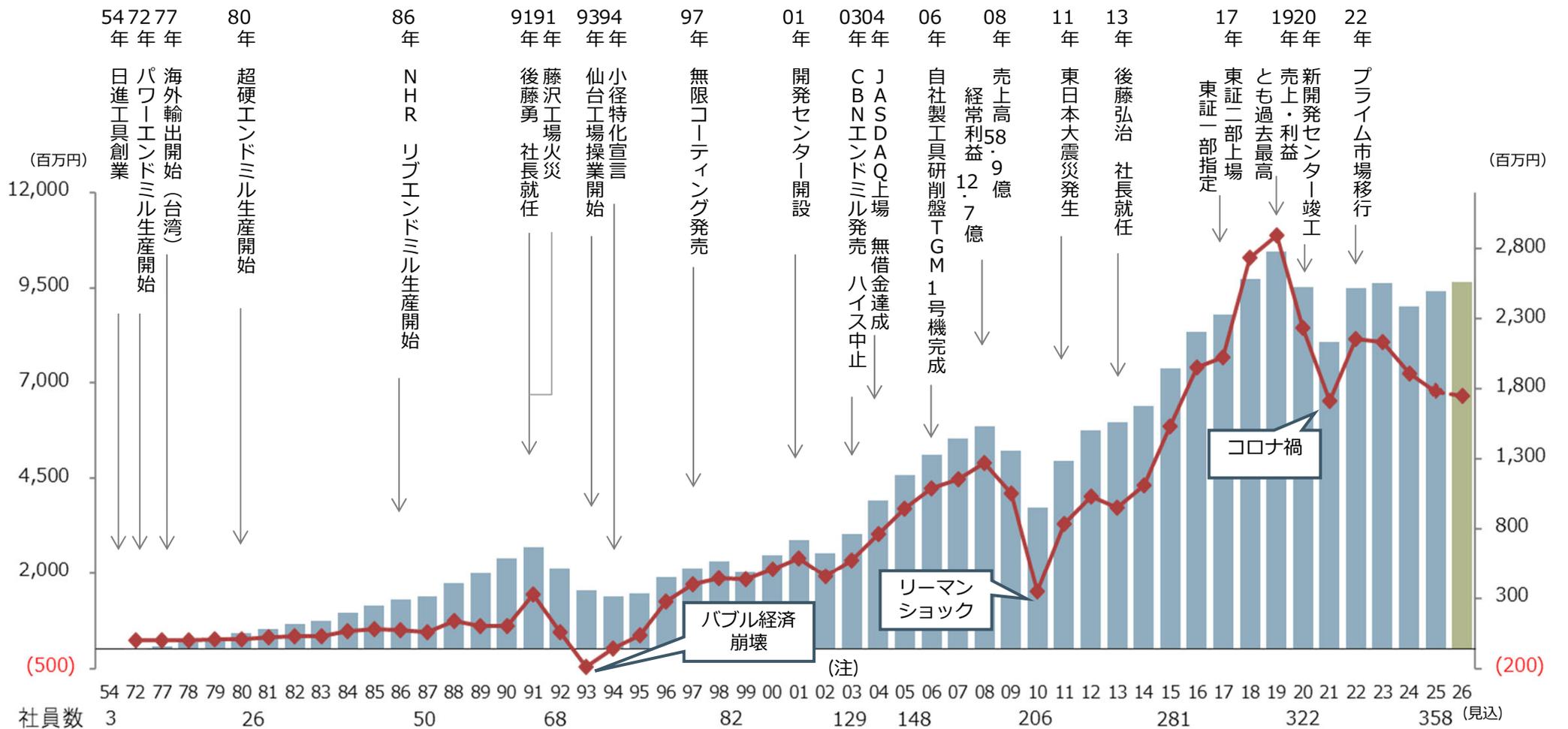
売上58.9億円、経常益12.7億円達成

売上104.7億円、経常益28.9億円達成

後藤 進二

後藤 勇

後藤 弘治

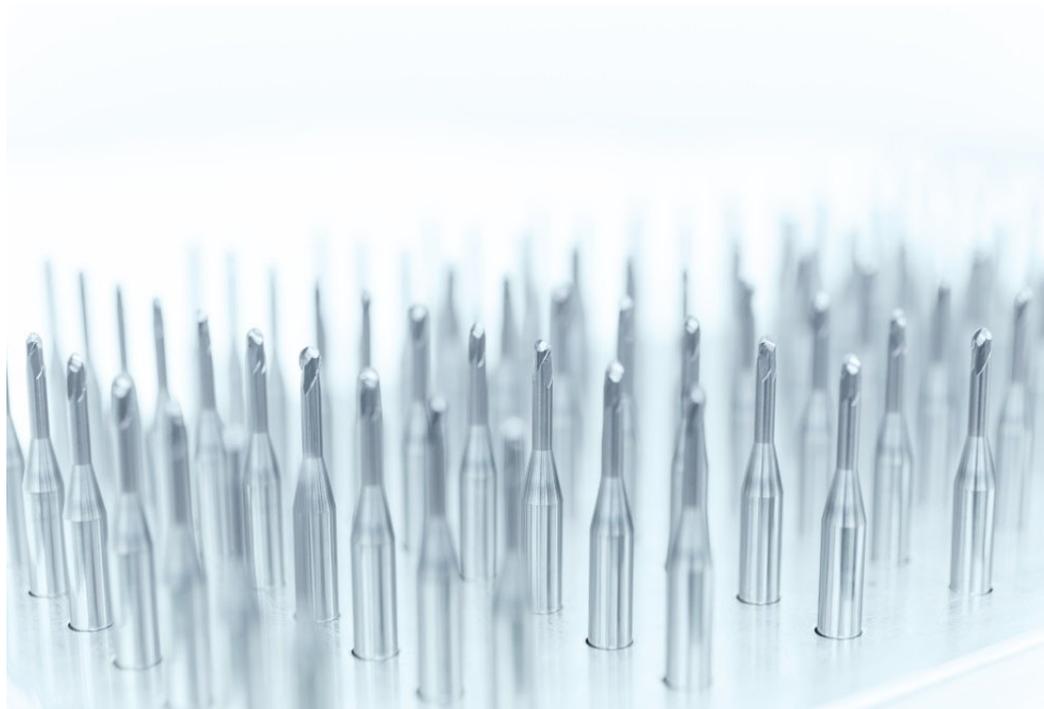


当社製品（超硬エンドミル）について

エンドミルとは、外周部と底部に切れ刃を設け、工作機械（マシニングセンタ）に取付け回転させることにより、金属等の加工を行う切削工具の一種。

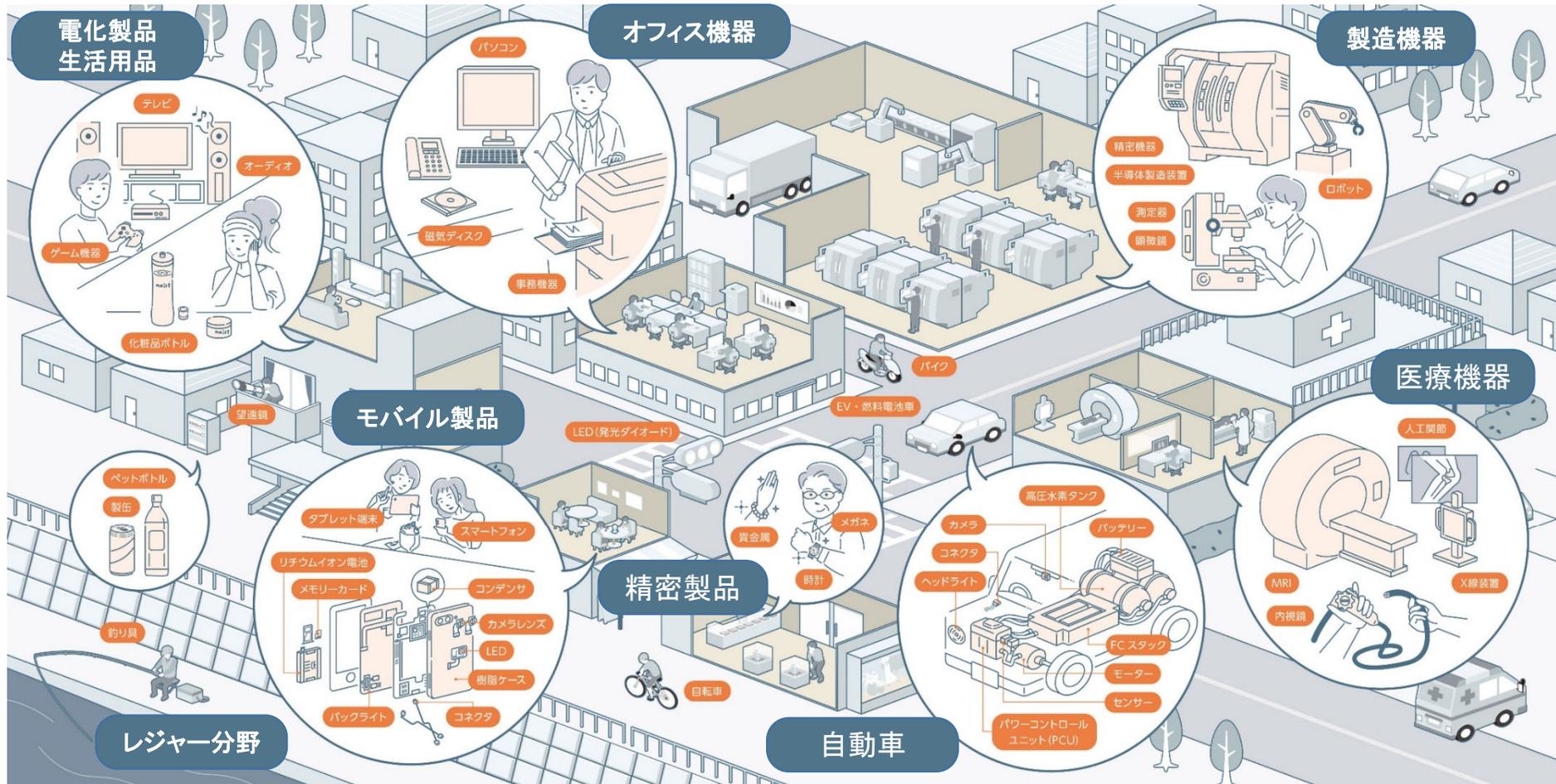
従来はハイス（高速度工具鋼）製が主体であった。

ハイスより硬い超硬合金（炭化タングステンとコバルトの焼結体）を使ったものが超硬エンドミル。

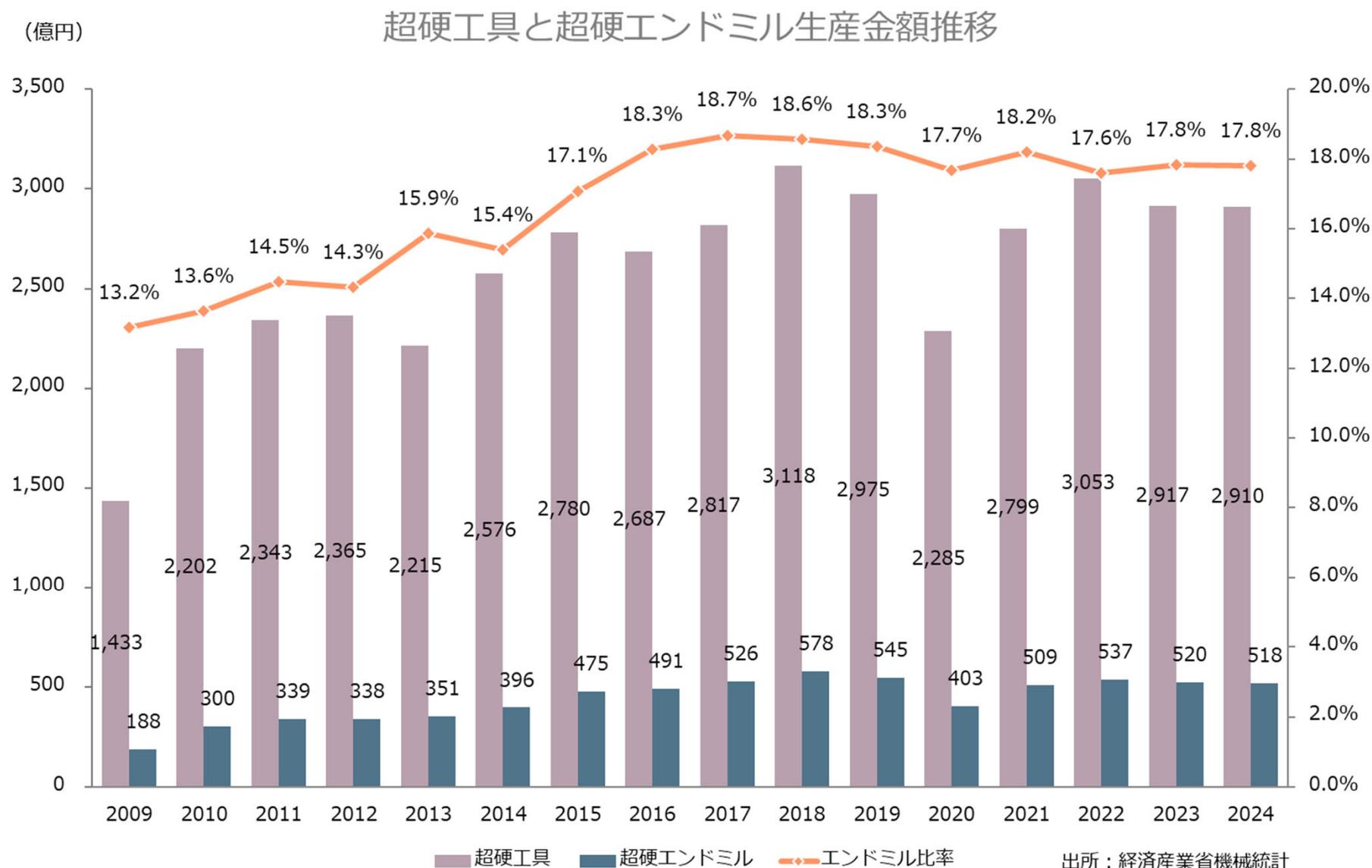


超硬エンドミルの用途

超硬エンドミルは、金型や金属部品等の切削加工に用いられる。
 当社では、刃先の直径が6mm以下となる小径エンドミルに特化しており、
 主に高い精度が要求される精密金型や微細部品等の加工に使用されている。



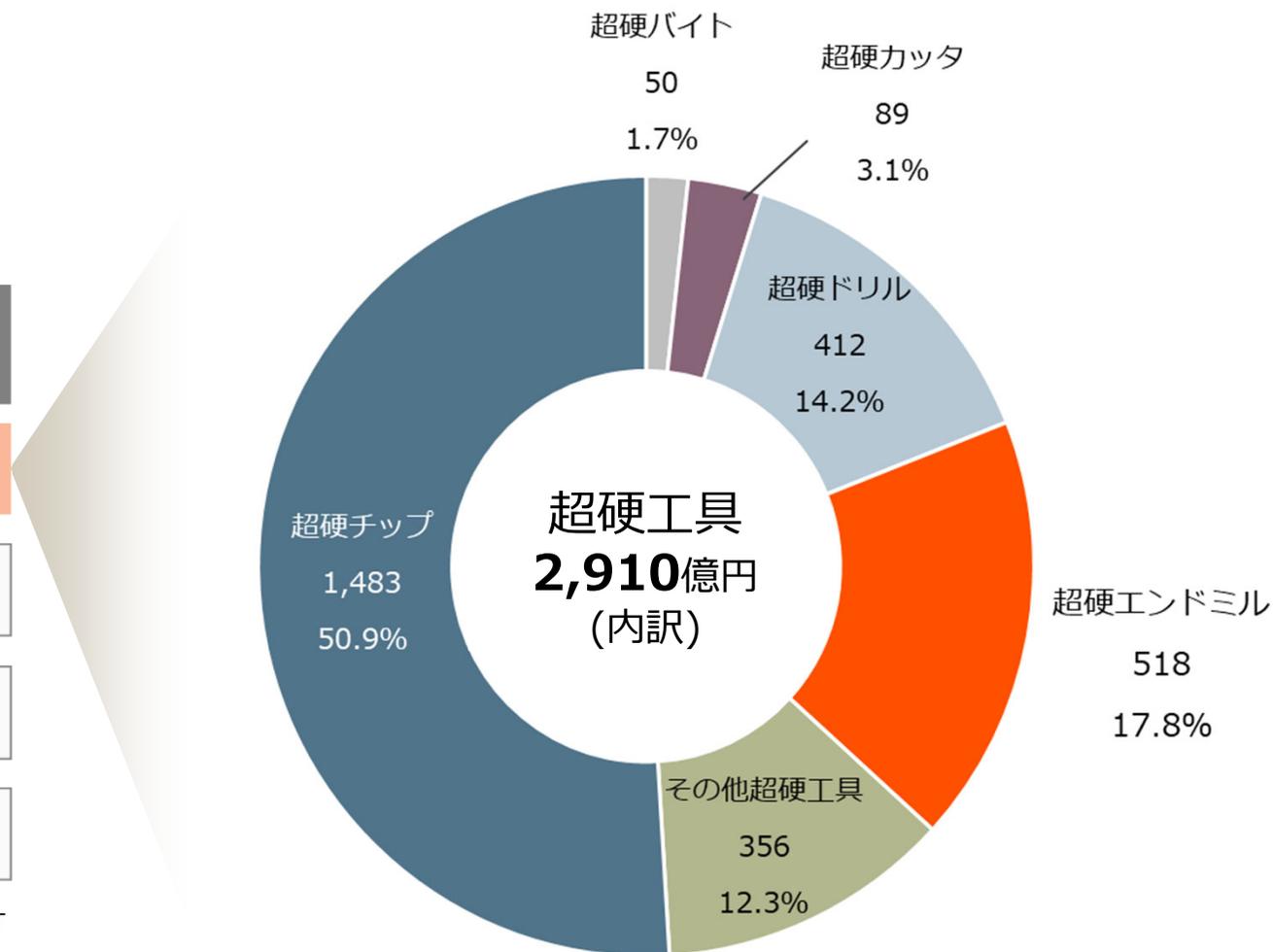
超硬工具と超硬エンドミル市場推移 (暦年)



超硬エンドミル市場の概況

機械工具生産金額 (2024年)	
総額	4,555億円
超硬工具	2,910億円(63.9%)
C(W)BN工具	284億円(6.2%)
ダイヤモンド工具	614億円(13.5%)
特殊鋼切削工具	746億円(16.4%)

出所：経済産業省機械統計



今後の超硬小径エンドミル市場

超硬小径エンドミル※の市場規模は、家電のデジタル化や携帯電話の登場により急拡大し、スマートフォンの普及、自動車の運転支援機能の高度化等からさらに広がりを見せた。現在は生成AI関連市場が急速に拡大しており、今後も様々な製品に半導体や小型電子部品の使用が増えると思込まれる。また、電気自動車（EV）やハイブリッド自動車（HV）、燃料電池自動車（FCV）など進化を続ける自動車産業に加え、医療や航空宇宙・防衛といった新たな加工領域においても需要の高まりが期待され、それらの生産に欠かせない超硬小径エンドミルの需要は中期的には堅調に推移するものと予想される。

※ 当社では「小径＝刃径6 mm以下」と定義している

超硬小径エンドミルの市場規模（当社推計）



日進工具 3つの強み



01

生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る

高付加価値に特化



03

販売力

小径エンドミルではトップクラスのシェア

精密・微細加工を主とした加工技術提案
海外でも認知度がアップ



Micro thread cutting tool

02

開発力

超 モノづくり部品大賞等を受賞

高付加価値・次世代製品への取り組み
カギは製品の高精度化と長寿命化

財務体質

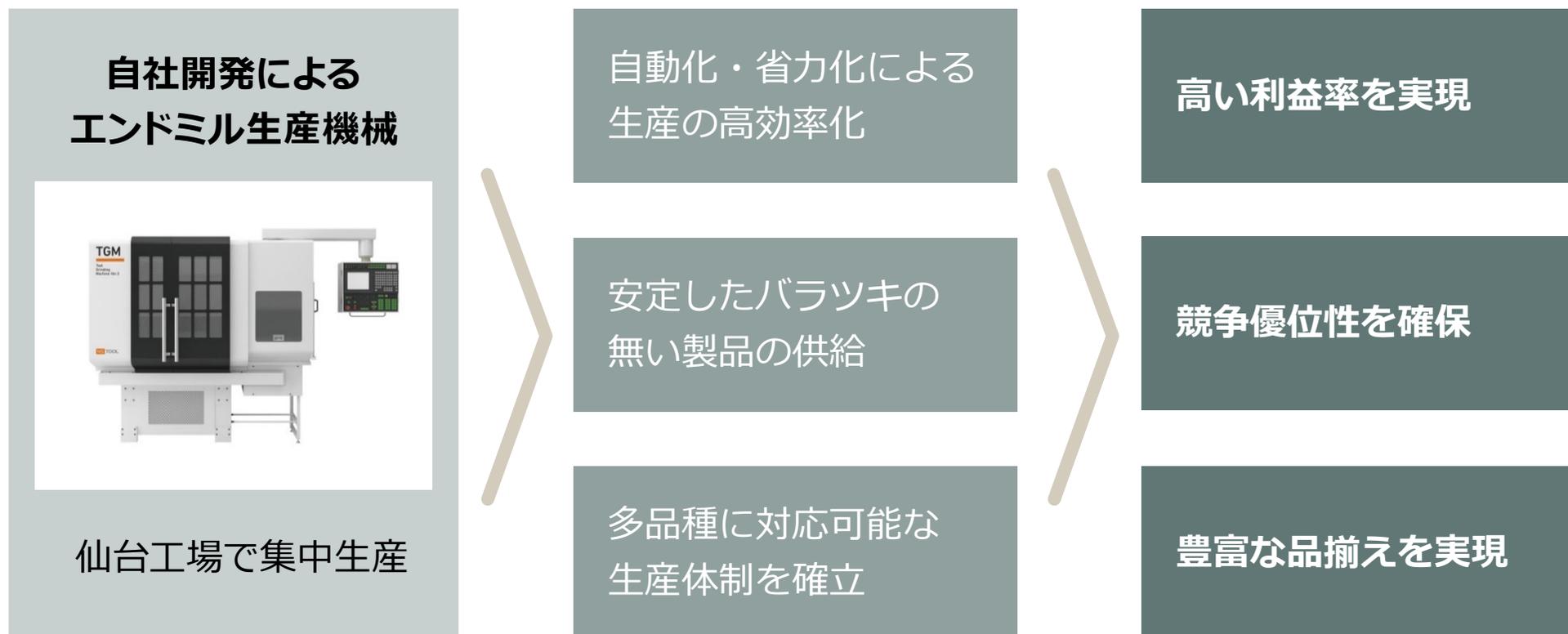
強固な財務基盤と高い収益力

有利子負債 ゼロ

経常利益率 18.9%

(2025/3期)

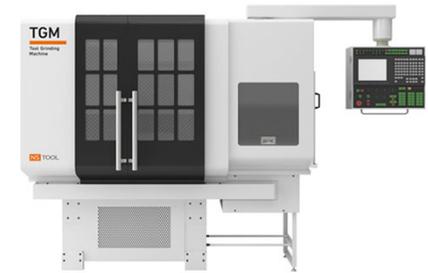
自社開発機による自動化（圧倒的な差別化）



他社との「違い」を追求

日進工具のサステナビリティ

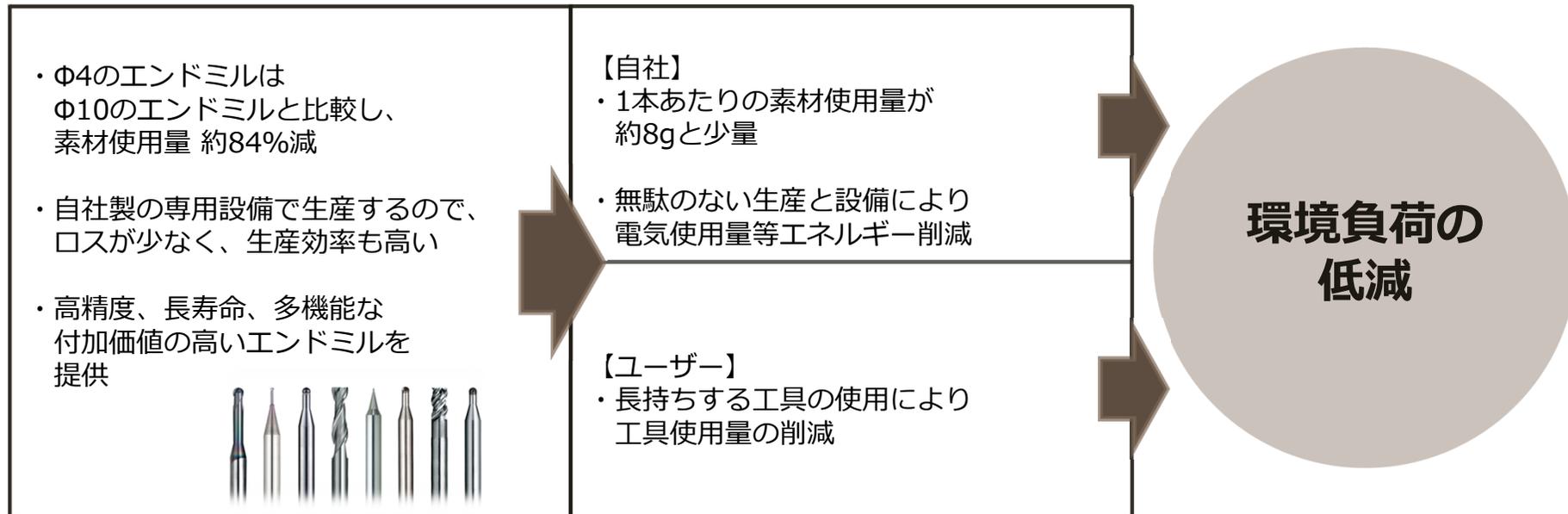
「人と地球にやさしい製品を、最小限の資源でつくり、環境負荷の低減に努めます。」



自社開発のエンドミル生産機械

小径工具に特化

省資源化



事業活動においては・・・

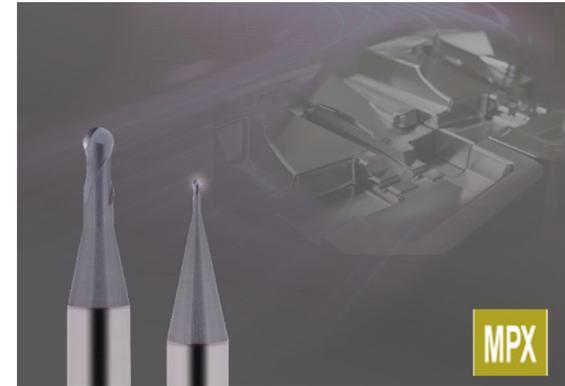
- ・ 最小限の資源を最大限有効活用することに努めます。
- ・ 使用済製品のリユースやリサイクル、リデュースの推進など、環境保全を重視した取り組みを実行して参ります。

新製品 XRBH230 発売

SUS420用ロングネックボールエンドミル『XRBH230』

✓ プラスチック金型によく使用されるステンレス鋼 SUS420J2 52HRC相当専用
⇒被削材を絞り込むことで、より高い性能を発揮

✓ 新コーティング「MPXコーティング」を採用
⇒従来比2倍以上の驚異的な寿命を実現
⇒工具費削減や作業時間短縮など、コスト削減に貢献



←従来品では工具摩耗が大きく、加工を中断
長寿命を実現した『XRBH230』では1本で加工完了

より詳細な加工の様子・従来品との比較は
二次元コード または

<https://www.youtube.com/watch?v=TNYL-NXjkhI>

より視聴可能です



コーポレート・ガバナンスの体制 (2025年3月31日現在)

形態	監査等委員会設置会社
取締役の人数	10名
うち、監査等委員	6名
うち、社外取締役の人数	4名
社外取締役のうち独立役員	4名
任意の委員会	指名・報酬委員会 (社外取締役3名、社内取締役1名で構成)
取締役の任期	1年 (監査等委員は2年)
取締役へのインセンティブ付与	株式報酬制度・業績連動賞与 (監査等委員は除く)
執行役員制度	有 (現在3名)
会計監査人	監査法人A&Aパートナーズ

グループ会社（連結子会社）の概要 （2025年3月31日現在）

株式会社ジーテック

所在地

東京都品川区

事業内容

切削工具の販売



株式会社日進エンジニアリング

所在地

本社：宮城県黒川郡大和町
新潟工場：新潟県魚沼市

事業内容

コーティング加工、再研磨、
切削工具の製造



株式会社牧野工業

所在地

福島県白河市

事業内容

工具ケースを主力としたプラスチック成形品の製造・販売



NS TOOL HONG KONG LIMITED

（日進工具香港有限公司）

所在地

中華人民共和国香港特別行政区

事業内容

切削工具の販売（香港・中国）



NS TOOL USA, INC.

所在地

アメリカ合衆国ミシガン州
ロチェスターヒルズ

事業内容

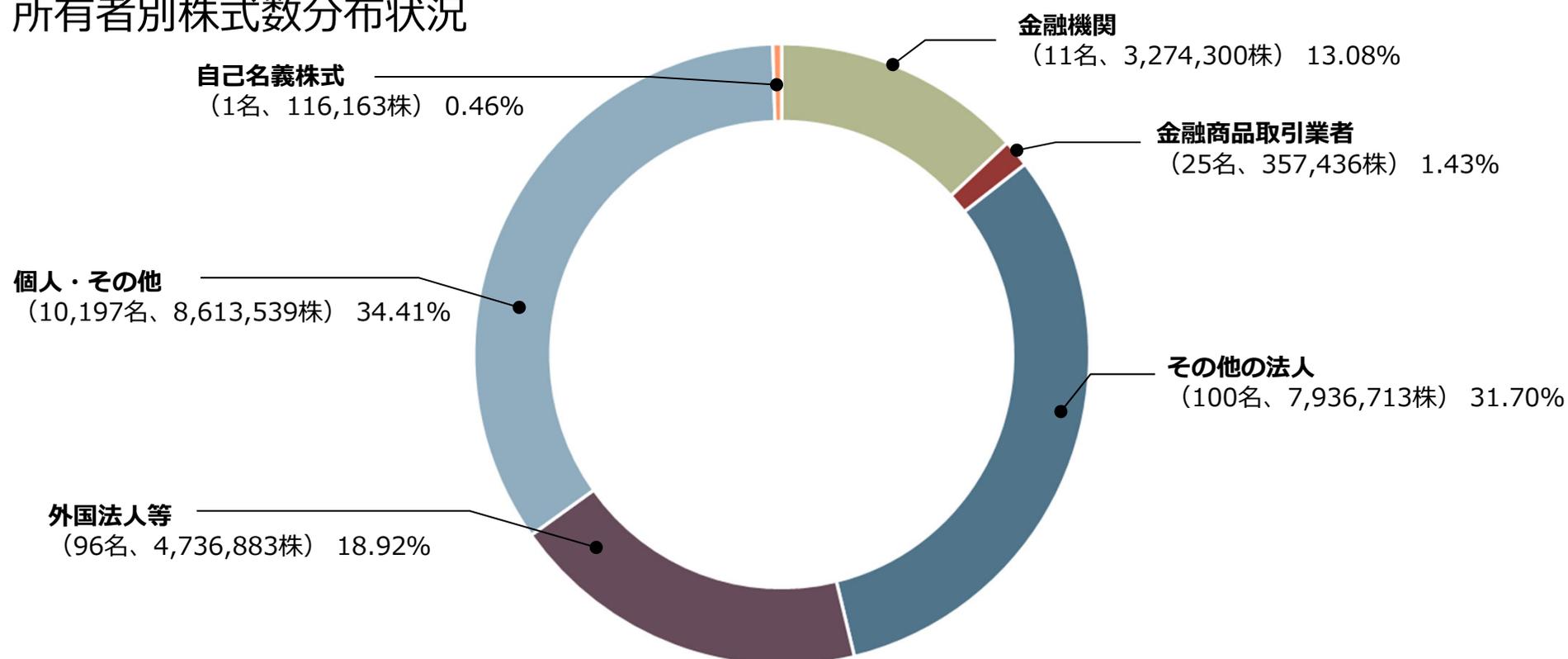
切削工具の販売（米国）



株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数	38,400,000株
発行済株式総数	25,035,034株
株主数	10,430名

所有者別株式数分布状況

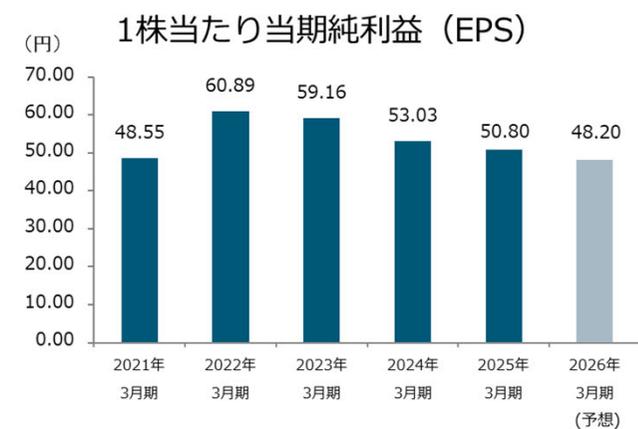
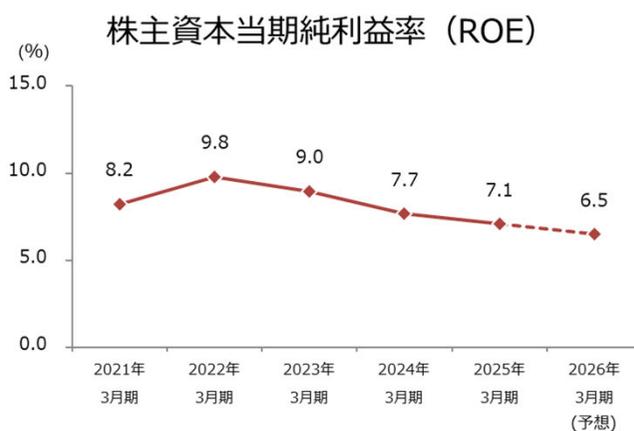


過去5年間の業績と主要データ推移

(単位：百万円)	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期実績
売上高	8,100	9,524	9,656	9,040	9,431
営業利益	1,512	2,111	2,108	1,867	1,767
営業利益率	18.7%	22.2%	21.8%	20.7%	18.7%
経常利益	1,712	2,156	2,131	1,908	1,779
経常利益率	21.1%	22.6%	22.1%	21.1%	18.9%
当期純利益	1,214	1,522	1,475	1,320	1,264
当期純利益率	15.0%	16.0%	15.3%	14.6%	13.4%
有利子負債額	—	—	—	—	—
純資産額	15,326	16,165	17,200	17,729	18,415
総資産額	16,936	17,874	18,857	19,241	19,941
自己資本比率	89.4%	89.2%	90.1%	91.1%	91.4%
設備投資額	462	659	686	563	111
減価償却費	707	692	669	627	644
1株当たり配当金（円）	17.50	22.50	22.50	27.50	30.00
従業員数（人）	339	348	352	350	358

※2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

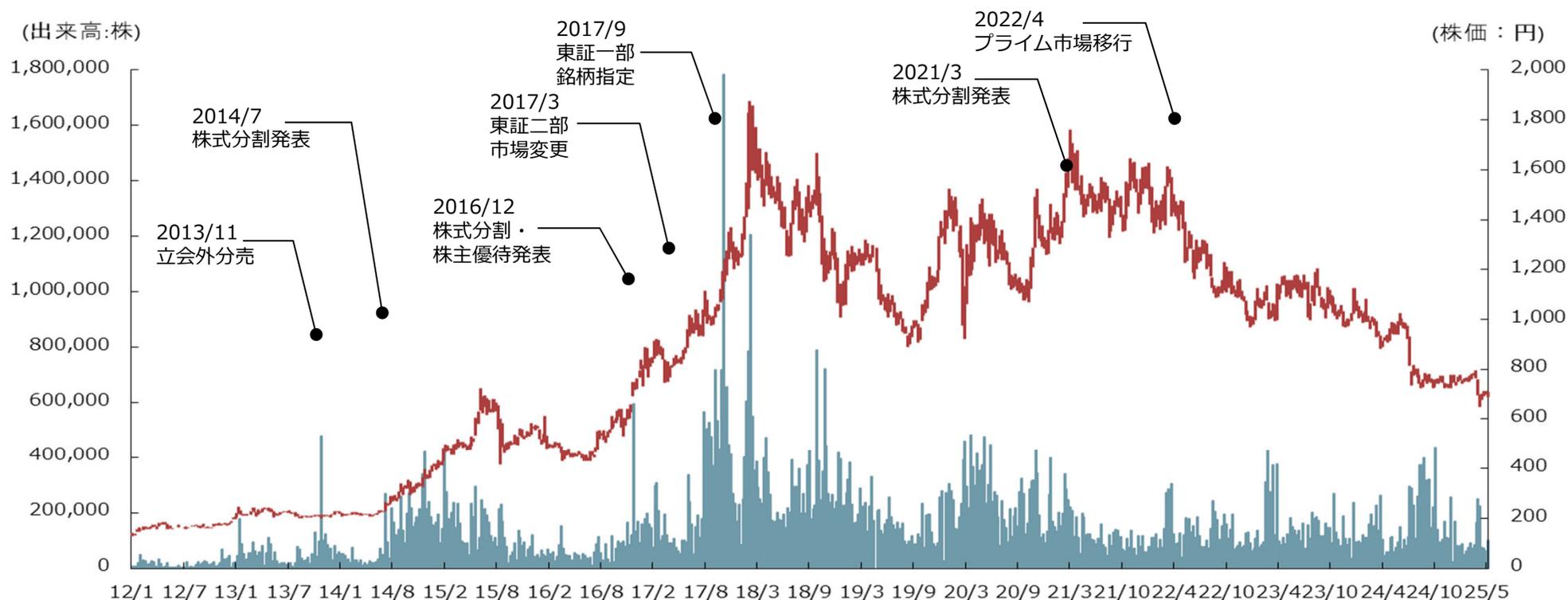
投資指標



※ 2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移（2012年1月～2025年5月）



※ 2014年10月1日、2017年1月1日、2021年4月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション（2025年5月13日現在）

売買単位	100株
時価総額	175億円
ROE (25/3期実績)	7.1%

単元株価格	7万300円
PER (26/3期予想)	14.59
PBR (25/3期実績)	0.96倍

IR情報サイト／ニュースメール登録のご案内

The screenshot shows the NS TOOL IR information website. The top navigation bar includes '製品情報', '事例・技術情報', '会社情報', '採用情報', and 'IR情報'. The main content area is titled 'Investor Relations' and 'IR情報'. Below this, there are sections for 'IRトピックス' and 'IRニュース'. The 'IRトピックス' section lists recent reports, and the 'IRニュース' section lists news items. A right-hand sidebar contains a 'メニュー' (Menu) with expandable items like '経営方針・体制・コーポレート・ガバナンス', '事業戦略', '業績・財務情報', 'IRライブラリー', 'イベント', and '株式情報'. A 'URL' box and an 'IRニュースメール登録' (IR News Email Registration) box with a QR code are also present.

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています。

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます。

現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります。

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます。

URL <https://www.ns-tool.com/ir/>



当社の適時開示情報・IR情報をタイムリーに受け取ることができます。

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

取締役	経営企画室長兼管理部長	戸田	覚
管理部	経理課長	佐原	大樹
管理部	I R担当	松尾	友紀子

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。